



# 東京の会通信

## No.261

2015年7月1日号  
(隔月1日発行)

発行：公的骨髄バンクを  
支援する東京の会

〒162-0065 東京都新宿区

住吉町10-8 第1菊池ビル302号

TEL：03-3354-6377

(FAX兼用)



<http://www.marrow.or.jp/tokyo/>

e-mail:marrow\_tokyo@yahoo.co.jp

定価 100 円

# 東京にキャラバンカーがやって来た!

東京の会が加盟するNPO全国骨髄バンク推進連絡協議会は、今年設立25周年を迎えました。その記念行事の一環で、「ゆいまー号」と名付けられたキャラバンカーが、4月24日に那覇を出発し、6月28日に札幌でゴールするまで、2か月以上にわたり全都道府県を巡ってキャンペーン活動を行いました。その日本縦断の約半分を走破したところでキャラバンカーが東京に到着、5月30日から6月1日の3日間滞在しました。5月31日は全国協議会の25周年記念大会が開催され、キャラバンカーは会場の早稲田大学国際会議場に終日展示されましたが、5月30日と6月1日は東京の会がキャラバンカーを運行しました。

## ◆ゆいまー号で都内名所巡り

5月30日、東京のキャラバンがスタートしました。沖縄の出発式に出席した私は、キャラバンカー「ゆいまー号」との再会に胸をふくらませ、前の晩もあまり眠れなかったため、待ち合わせ場所の川崎駅には随分早く着いてしまいました。



25県2府を走り繋いで来た車体にたくさん貼られた赤丸メッセージをしげしげ眺めているうちに、いよいよ出発、多摩川を渡り東京都に入り、東京タワー・皇居・東京スカイツリーと都内名所で記念写真を撮りながら、最初の表敬訪問先であるスカイツリータウン 東京ソラマチ「献血ルームfeel」を訪れました。私は移植を受けた患者として、ドナーの中谷光子さんとアピール文を交互に読み上げるという大役を努めました。たぶん事前に計画があつたのだと思いますが、このサプライズをととても嬉しく思います。



献血ルームfeelにて

その後、木場公園の会場に乗り入

れてSNOW BANKの皆さんと盛大なイベントを十二分に楽しませて頂きました。(鳥羽雅行)

## ◆木場公園から未来に伝える

木場祭りの朝は前日の雨が上がり青空です。キャラバンカーのイベント会場は屋外なので、お天気が心配でした。江戸情緒の木場らしい粋なチラシができて、事前に配布しポスティングもしました。

スノーバンクの荒井DAZE善正さんグループのステージトラックも到着し、会場の設営が始まります。公園内のバーベキュー会場に来る人たちや子ども向けに「割箸鉄砲製作体験」と「輪投げ」を企画しました。松阪班の割箸鉄砲と一緒に作ってから、ぶら下げた飴に輪ゴムで射的をします。輪投げはアメリカ在住の松下さんに、メールで輪っかの作成法を伝授され、ペットボトルの的を狙って遊びます。両方とも景品は、1等から3等ハズレまで色々なおもちゃです。千葉の会の円東さんと河口さんには「バルーンアート」をお願いしました。

ステージでは、ウクレレやDJ、荒井DAZEさんのトーク、沖縄宮古

2015年5月30日11時-16時		木場公園イベント会場
MUSIC		<b>入場無料</b> 会場内 無料
GAZZ ラクシテラ・リスト 音楽雑誌編集者 電 演 貴 士 アーティスト DJ RYOHEI DJ 貴 士		
TALK LIVE		荒井DAZE善正 フォトジャーナリスト 音楽家 作家 編集者
WORK SHOP		ちやんの割り箸 DAZE 貴士 FOOD & DRINK HIMARAK CAFE BLUE MOON 千葉県キャラバンカー
地図		トナーぶつた「日本版キャラバンカー」にメッセージを載せて 街へお土産を届けよう!

江戸情緒を取り入れたチラシ

島出身のシンガーのライブが行われ、Tシャツプリントやホッピングの体験コーナー、軽食のキッチンカーやアメリカの輸入ビール販売なども行われ、来場者は楽しんでいただけたと思います。キャラバンカーに貼りつける赤いメッセージシートもたくさん書いていただき、数が増えて行きました。木場公園の木々をぬけるさわやかな風が吹き、子どもたちの喚声を聞きながら楽しい時間が過ぎていきました。

17時には片付けをすませて新宿に行き、全国協議会総会後の懇親会に合流です。じゃんけん大会で参加者一同が盛り上がり解散でした。しかしそのあと思いがけないハプニングが起きました。小笠原でM8の地震があり、電車が止まり帰宅困難になりました。櫻井洋子さんは3時間も混雑した車中に立ち通して、体調が悪くなったそうです。

これから先、北海道までの、キャラバンカーの安全と無事を心から祈らずにはいられませんでした。

(大塚礼子)

#### ◆ゆいまーる号、多くの人に出迎えられる

6月1日午前8時45分に東京都議会議事堂前に集合し、9時の始業とほとんど同時に疾病対策課へ行きました。課長さんにはお会いできなかったものの、私たちの今回の趣旨を都知事宛にお伝えすることができました。

『ゆいまーる号』と、もう一台の車が都庁から日赤本社に向かいましたが2台とも道に迷い、10時の約束に若干遅刻してしまいました。ようやく到着すると、本社前には、ズラッと職員さんが勢揃いでお出迎えます。全国協議会の野村理事長がアピール文を読み上げ、血液事業本部長の西本至様に手渡すと大きな拍手

が起きました。同乗の三瓶和義さんが「こんなこと、これまで考えられなかった」と感慨深そうでした。

11時には厚労省で移植医療対策推進室長と懇談し、12時には骨髄バンクを訪問。こちらでも齋藤英彦理事長をはじめ、事務局長や職員さんが多数出迎えて下さり、齋藤理事長も赤丸のシールにメッセージを寄せて下さいました。その後、13時に江東区辰巳の日赤東京都赤十字血液センターを訪れました。ここでも記念写真に入りきれないほど多くの方が迎えて下さいました。三瓶代表から加藤所長にアピール文を手渡し、今後の献血ルームでの活動がさらにやり易くなると確信しました。

発足当初には考えられなかったような日赤や骨髄バンクの対応に私たちは感動するとともに、これからもみんなが手を携えて全国の患者さんのために活動していかなければと強く思いました。

午後2時には『ゆいまーる号』はトヨタレンタリースの整備工場に入り、東京の会のキャラバン日程は無事終了。東京の会のキャラバン隊は、浅草のレストランで祝杯を上げ、浅草寺でキャラバンカーの安全運行をお祈りして、帰途に着きました。(中谷光子)



日本骨髄バンクの皆さんと

## 11月は「バラのかおりのコンサート」へ

東京の会の秋の恒例行事、ピアノ三重奏コンサートを今年も開催致します。祝日の午後、バラのかおりと素敵な音楽のひと時をお楽しみ下さい。

まだ少し先ですが、どうぞ今からスケジュールに入れていただき、お誘い合わせの上是非お出かけ下さい。お待ちしております。

日時 2015年11月23日(月祝)14:00開演(13:30開場)  
 場所 発明会館ホール(地下鉄「虎ノ門」駅 徒歩5分)  
 出演 ヴァイオリン 三戸素子/チェロ 小澤洋介/  
 ピアノ 未定  
 料金 前売券 3,000円(当日券 3,500円) 全席自由

### 心のこもったご寄付ありがとうございました。(2015.4.16~6.15)

石崎友子さん 2,000円/幸川はるひさん 2,000円/鳥羽幸子さん 30,000円/二華会 東京支部 20,710円  
 和泉屋正敏さん 3,000円/村上順子さん 2,000円/若林秀子さん 7,000円/小泉育子さん 5,000円  
 仁野明人さん 1,000円/清水一夫さん 7,000円/赤座達也さん 10,000円/志村哲夫・励子さん 7,000円  
 鳥羽雅行さん 2,000円

お寄せいただいたご寄付のうち、会費未納の会員からは会費(年3,000円)を差し引いて掲載させていただきました。

## おしらせ

6月27日に、東京の会の第26回年次総会が開催されました。議案など詳しいご報告は、東京の会通信9月号に掲載予定です。

# 全国協議会25周年記念大会 「明日のステージへ」

5月31日、全国協議会25周年記念大会が早稲田大学国際会議場「井深大記念ホール」を会場にして開催されました。

第一部では、仲田順和会長の主催者挨拶、厚生労働大臣（代読）はじめ来賓各位のお祝辞に続き、若年層ドナー登録映像作成コンペティション入賞作品の上映と表彰が行われました。審査員特別賞は「would like」、最多再生回数賞「いのちのダンス」の2作品でした。

第二部では、我が国のバンクから提供を受けた患者さんお二人を招いて国際シンポジウムが行われました。一人は韓国の39歳の男性、金さんです。日本の骨髄バンクを通じて移植を受けて元気になりました。夫と主治医の方も同伴されました。

もう一人はオーストラリアから来られた13歳の少女、タビサちゃんです。5歳の時にムコ多糖症を発症して、東京さい帯血バンクから提供を受けたさい帯血を移植し回復されました。ご両親、主治医の方と一緒に来日です。

我が国のバンクから提供を受けて元気になられた元患者さんお二人とご家族からは、提供者への感謝と国際協力の一層の拡大充実への願いが述べられました。タビサちゃんはストリートダンスが好きだと自己紹介があり、踊って見せると会場からリクエストされるとステップを元気に披露してくれました。

第三部は、全国協議会顧問の大谷貴子さんの進行で「造血細胞移植・25年のあゆみ」と題するシンポジウムです。5年ごとに時期を区切り、各時期ごとにまとめられたスライドが上映され、大谷さんが軽妙な語り口で解説、続いて担当パネラーがその時期の歩みの特長を説明する方式で進行されました。

我々ボランティアの立場としては、造血幹細胞移植治療は患者さんにとって大変厳しい治療であると同時に、善意の健常者のドナーさんに骨髄採取時、全身麻酔という大きな負担をかけるので、薬剤の進歩で移植療法の必要性がより少なくなり、またiPS細胞療法の進歩によりドナーさんからの採取が不要となる時代が来ればとも夢見ますが、当面は各国の造血幹細胞バンクが拡充され、国際協力がよりオープンに行われて補



国際シンポジウムに海外から招かれた元患者さんと医師、ご家族の皆さん

い合うことが望ましいと感じた次第です。（新田恭平）

## 海外からのお客様を東京の会のメンバーがアテンド!

今回の全国協議会25周年記念大会では、第2部で「国際シンポジウム・造血細胞移植における国際協力」が開催されました。日本で採取された骨髄とさい帯血が海外に渡り、移植後に元気になった患者さんを2組招待する企画です。オーストラリアと韓国からお招きするにあたり、英語が話せるボランティアを募集したところ、東京の会メンバーの奥海祐子さんと石崎保夫さんが名乗り出てくれました。お二人から、海外の元気になった患者さんとの交流を報告してもらいます。

### ●奥海祐子さん

全国骨髄バンク設立25周年記念大会に際して、オーストラリアから来日されたタビサちゃんのご両親、主治医のスーザン先生のアテンドをさせて頂きました。

式典とシンポジウムの後、5人で浅草に観光へ。雷門で記念撮影をしてから仲見世をゆっくりと巡りました。スカイツリーも遠くに見ながら、ゆかたやハローキティのぬいぐるみ等それぞれに買い物を楽しんでいました。

その後ゆっくりと休憩。タビサちゃんは30cmはありそうな一番大きなパフェを注文！会話を通して家族と主治医の距離が非常に近く、親身にコミュニケーションをとっていると感じました。家族仲も非常によく、常に笑いの絶えない一日でした。

式典の中で、隣国でもHLAが合にくい国もあるという話もあり、そんな中での日本のドナーさんとの不思議なつながりについてお母さんも非常に驚いていました。タビサちゃんは今回の来日が決まった際、泣いて喜んだそうです。バンクの活動が患者とその家族の人生を救っただけでなく、国際交流にもつながっていることを実感しました。

私自身、医療通訳になりたいと思って勉強し始めて4年。英語の能力不足を痛感しましたが、このような機会を頂けたことに深く感謝しています。ありがとうございました。



タビサちゃん（前列）と左から奥海さん、先生、ご両親

## ●石崎保夫さん

25周年記念の国際シンポジウムに海外からの移植患者ゲストとして招待された韓国人の金さんご夫妻と主治医の明先生をアテンドしました。東京の会からお話をいただいた時は、自分で大丈夫か心配でしたが、患者さんは留学経験があり日本語ができるとの事前情報があり、少し安心。緊張して迎えた羽田空港では、金さんご自身は始めからとても流暢に日本語を話してください、みんなで韓国語、日本語、英語を交えながらアテンドする事ができました。

金さんは、シンポジウムの会場となった早稲田大学の大学院へ2年間留学しており、結婚し、お子様が2人います。留学していた金さんはもちろんですが、奥様が結婚前に日本に一人旅の経験があるくらい日本が好きで、お二人の新婚旅行も日本だったそうです。骨



左から石崎さん御夫妻と明先生、金さん

髄も日本からもらう事になり、日本への思いはますます強くなったようです。

自由時間では、久しぶりに来た東京を満喫していかれたようです。韓国は日本に比べ上下関係がきちんとしており、目上の人に対する敬いがはっきりしています。金さんも例外ではなく、久しぶりに来た日本を楽しみたい自身の気持ちをぐっと抑え、10年以上お世話になっている明先生のためにと先生のお土産探しに一所懸命でした。

金さんは病状が良くなかった時、もし自分が死んでしまっても姿が残せると思い、とにかく写真をたくさん撮る事にしました。今回も、買い物や移動中、駅やお店やホテル前など、機会を見つけてはたくさん写真を撮っていました。奥さんとハイ、キムチ（ハイ、チーズ）。先生とハイ、キムチ。私たちとハイ、キムチ。みんなでハイ、キムチ。とにかくポジティブで、随所に感謝の気持ちが出る金さんでした。

今回骨髄バンクが取り持つ縁で、とても素晴らしい出会いの機会をいただけて大感謝です。活動もグローバル化の予感がしてきたので、今後に備え英語のスキルアップも継続しなければ、という思いを強くしました。近いうちに今度は韓国での再会を約束し、しばしの別れとなりました。

## 全国協議会の新たな発展のための歴史的総会

5月30日、新宿の全労済東京会館で全国協議会の2015年度通常総会が開催されました。東京の会からは、新田顧問が代議員として出席し、三瓶代表が開催地よりの選出で総会議長を務めました。

冒頭の挨拶で野村理事長は、財政立て直しと安定化に向けた決意を表明し、加盟組織の絶大な協力を訴えました。議案の審議でも代議員から財政面での取り組みに対して理事会の決意を問う質問がありましたが、野村理事長と実務にあたっている理事より丁寧な説明と、再度にわたっての決意が述べられました。その後の討論を経て、1号議案から4号議案まで満場一致で採択されました。今回の総会は、25周年記念総会として、組織の新たな発展を目指す決意を確認した歴史的な総会となりました。

続いて、選挙管理委員会、役員選考委員会より、会長、

### 日本骨髄バンクの登録患者と検査済登録ドナー (平成27年5月末日現在)

	ドナー(全国)	ドナー(東京)	患者(全国)
登録者累計	451,982	57,319	45,010
4-5月登録分	4,523	432	535
4-5月抹消数	3,145	372	—
実質登録増	1,378	60	—

副会長、理事、監事の選任案が提案され、満場一致で選任承認されました。東京の会からは、野村氏が再選され、若木代表代理が、新たに理事に選出されました。

総会・代表者会議を終了後、ホテルローズガーデンで、若木新理事の司会により懇親会が開催されました。「本場祭」から東京の会のメンバーも大勢駆けつけ、にぎやかな交流会となりました。

この交流会には、翌日の25周年記念大会にパネリストとして招かれた、韓国の金さんご夫婦と主治医の明先生、オーストラリアのタビサちゃんと御両親、主治医のラッセル先生が参加していました。金さんは日本に留学経験があり、流暢な日本語でスピーチし、タビサちゃんは、じゃんけんゲームに興じ、元気になった様子を披露しました。(三瓶和義)

### 患者とドナー登録・適合状況(5月末日現在)

ドナー登録受付者数(累計)	639,598人
ドナー登録抹消者数(累計)	187,616人
HLA適合報告ドナー数(累計)	243,263人
実質登録患者実数(現在)	2,767人(国内1,470人)
HLA適合患者数(累計)	36,156人(患者累計数の80.3%)
非血縁移植実施数	18,253例(4-5月実施190例)

# 考えて欲しい「もし自分の家族が病気だったら…」

静岡骨髓バンクを推進する会：飯田 多可一さん

1994年に地元の青年会議所に入会しました。青年会議所という団体は、全国規模の大会が毎年数回開催されており、私は1996年に横浜で開催された「サマーコンファレンス」に参加しました。

ここで聞いた大谷貴子さんと東ちづるさんのトークショー(?)が、骨髓バンクへの登録のきっかけでした。当時は、日々漫然と生活していましたが、大谷さんのお話を聞き、非常にショックを受け、自分の中に何か湧き上がってくるものを感じました。翌日はがきを投函し、後日近くの日本赤十字社の浜松事業所まで出掛けて登録しました。

「基本的に親は子に骨髓をあげることができない」という事実を聞き、自分に置き換えてみると、とてもやりきれない気持ちになりました。自身の周りに血液疾患に苦しむ方がいなければ、骨髓移植のことは知ろうともしないでしょう。骨髓移植のことを知らない方々は、「身内の者が提供すればいいのに何で他人に頼るのだ」と思っていることでしょう。こういった骨髓移植の難しさをしっかり伝えるための広報活動がまだまだ足りていないように思います。

登録から数年経って、骨髓バンクから「ある患者さんとHLA型が一致している」という連絡をもらい、少し興奮したことを覚えています。骨髓採取及び麻酔に関する心配は、なぜか全くありませんでした。「私の骨髓で助かる可能性のある患者さんのお役に立ちたい」と思っていました。偶然にも親父と一緒に経営していた会社をたたんだばかりで、毎日が休日同然で、すべて骨髓バンクからの要請の日時で病院に行くことができました。コーディネーターが進むうちに次の就職先も決まり、初出勤日と採取日が重なったのですが、初出勤を1週間延ばしてもらうことができました。

骨髓バンクにドナー登録した時は、「骨髓を提供したい!」と考えて、お知らせが届くことを待っていました。しかし、コーディネーターが進み、いざドナーに選ばれると、それまでの自分の考えを恥ずかしく思い、申し訳ない気持ちになってきました。ドナーに選ばれないということは、自分と同じHLA型の患者さんがいないということで喜ぶべきなのに、自分は提供したいと考えていた。別の見方をすると、患者さんが現れることを待っていたわけです。患者さんやそのご家族にとっては本当に失礼なことだったと反省しました。

提供経験のない多くの方は、やはり採取後の腰の痛みが非常に気になるのではないのでしょうか。私の場合は、採取後に腰の辺りに少し厚手のベルトが付けられて止血をしていました。感じたのはよく言われる「鈍痛」という痛みです。し

かし、私の場合は、腰の痛みよりも、尿道カテーテルを抜いた後の排尿の痛みのほうが苦痛でした。反対に、私の腰の痛みはその程



度のものでしたので、排尿時の痛みを知っている方であればおおよそご理解いただけるものと思います。通常通り4日目には退院となり、その後の経過も順調でした。

提供してから数ヶ月後に、近くのデパートの催事場で「青空の天使たち」展が開催されていることを知り、娘たちを連れて出掛けてみました。そこでは、8歳で亡くなられた女の子と5歳で亡くなられた男の子の写真や絵などが展示されていました。会場では女の子のご両親とお話をさせていただいたのですが、話の途中で偶然にも同じ会社に勤務されていることを知りました。その場で「静岡骨髓バンクを推進する会」についての詳しい説明を聞き、骨髓を提供した後に「さらにお役に立てることはないか」と考えていたこともあり、すぐに入会を決め申し込みました。

これまで10年ほど登録会などで説明員として活動してきたことは、一旦植え込まれた誤解というものはなかなか払拭できないということです。未だに、採取場所を間違えている方が非常に多いために、都度できるだけ分かりやすく説明しています。実際のドナー登録会に参加してみると、圧倒的に女性の方が登録してくださることに驚かされます。男性は声を掛けても非常に逃げ腰ですが、女性は積極的に話を聞いてくださり質問も投げかけてきます。若い年代では特に顕著に感じられます。最近では、若年層の男性に積極的に声を掛けるようにしています。若いうちから登録していただければ、長期に渡って検索対象となります。

日本骨髓バンクからのデータを見てみると、仕事都合で提供を断る方が相当数いるという事実を残念に思っています。ご自身のお子さんに骨髓移植が必要な時に仕事を理由に断るでしょうか?会社なんかには行かず絶対仕事を休むでしょう。患者さんのご家族は皆さんそのような気持ちのはずです。この厳しい状況が世の中にはなかなか伝わっていないように思います。

微力ですが、今後も静岡県内で開催されるドナー登録会などでこれらの説明をし、造血幹細胞移植を希望される多くの患者さんが移植に進むことができるように、日々活動していこうと思います。



▼この会報が皆様のお手元に届くころには、キャラバンカーもゴールの北海道札幌に到着している事でしょう。4月24日に沖縄県庁で「出発式」をおこないスタートした「日本縦断キャラバン」は、2カ月を掛け、日本のすべての都道府県をドナーが運転してつなぎ、表敬訪問をした各地の血液センターや行政の皆さんの熱烈な歓迎を受けました。

▼この「日本縦断キャラバン」がこれだけ盛り上がったのは、キャラバンカーの斬新で目立つデザインと、「赤丸メッセージシート」の貼り付けがあったのも要因の一つではないでしょうか。キャラバンカーのデザインは、全国協議会25周年実行委員会に参加していた東京の会メンバーに一任され、「道路を走っていても、オッと振り返るような目立つデザインを考えよう」という事を念頭に置いて、若者へのメッセージを発信し続けている、東京の会会員のdazeこと荒井善正さんに協力を仰ぎました。

▼プロスノーボーダーの荒井さんは、毎年秋に代々木公園に雪を降らせてゲレンデを作りスノボ滑走のイベントを行う「スノーバンク」を主宰しています。その場で若者への情報発信を一緒に行っている「スノーバンク」メンバーのデザイナー、ガクンこと石崎学さんも企画に加わり、ある夜、秋葉原の居酒屋で、キャラバンカーのデザインについての作戦会議を開きました。

▼「目立つデザイン」については、他の色々なカーデザインを参考にネットで調べていたところ、助手席に座ると車体のイラストが窓から出る顔にピッタリ重なる「顔ハメ」がとっても面白いデザインになっている例があり、それを参考にすることを決めました。また今回30,000例の移植突破の記念でもあり、25年の活動の歴史も表現されるデザインを考えようという事にな

りました。その結果、右側面を「過去」、そして左側面を「未来」として、お互いが手に手を取るキャラバンロゴをボンネットにあしらって、過去から未来へつなげるイメージを意識しました。

▼右側面は、骨髄バンクが無かった時代に「骨髄バンクを創ろう！」と尽力し、実際に骨髄バンクを作り、それから25年間骨髄バンクを育て続けてくれた先輩方への感謝を「ありがとう30,000例突破！！」という言葉で表しています。左側面は、骨髄バンクをまだ知らない若者たちへのメッセージとして「あなたにしか救えない命がある」と願いを込めています。助手席ドアにあしらわれた「顔ハメ」「いのちの種採取中」は、末梢血幹細胞移植実行中の様子であり、出逢った方みなさまに顔をハメて写真などを撮っているいろんな場面で伝えていただきたいとの思いです。手と手を取り合って行われる骨髄バンク活動が、「過去」と「未来」をつなぎ、骨髄移植患者を救うことを、このキャラバンカーを右回りに見て回ると感じることができるように企画しました。

▼また全国各地のボランティアが参加するイベントなので、キャラバンカーに具体的な行動で表すことができないかも考えました。それが「赤丸メッセージ」として実現しました。「大切な骨髄」を表す“赤い丸いマグネットシート”に、このキャラバンに出逢い骨髄バンクを知った人や、これからの若者にメッセージを書いて貼ってもらい、白いキャラバンカーを赤い丸で埋め尽くすという企画です。この「赤丸メッセージ」は、500円の寄付で受け付けましたが、途中でシート追加搭載をするほど人気となり、キャラバンカーはどんどん真っ赤に染まっていきました。

▼各地のボランティアの皆さんは、準備に追われ大変だったと思います。でも、1台の車が全国の都道府県をボランティアがつなぐというイベントは、他の団体では実行不可能な大イベントです。全国のボランティアの力が、まさにひとつに「つながった」イベントになったのではないのでしょうか！全国の骨髄バンクボランティアの底力に改めて感動する思いです！本当にありがとうございました！そしてお疲れ様でした！（A）

## 東京の会 「7月、8月定例会」 のお知らせ

7月25日（土）、8月22日（土）午後5時30分より

会場：全労済東京会館3階会議室

※JR新宿駅西口下車7分（新宿区西新宿7-20-8）

※地下鉄丸の内線西新宿駅下車1番出口徒歩2分

青梅街道新宿警察署向かい・「キャン☆ドウ」角入り右側

※9月定例会予定・9月26日（土）午後5時30分より

## 9月会報発送

### 「おりおり」のお知らせ

8月の「おりおり」はありません！

発送作業は会報が発行される奇数月のみとなります。

9月5日（土）13時00分より

※13時までは品川運輸さんが使用されています。13時以降にお越し下さい。

場所：品川運輸・4階会議室（品川区東大井2-1-8）

JR大井町駅徒歩8分・京浜急行鮫洲駅徒歩2分

※今お読みになっている「東京の会通信」を約500部折って封入して発送します。簡単な誰にでも出来る作業です。いつも人手が足りません。どうかご協力を。

※11月「おりおり」予定・11月7日（土）13時00分より